

令和6年度（2024年度）

事業報告書（案）

2024年4月1日から

2025年3月31日まで

公益社団法人 日本動物園水族館協会

第1章 協会の概要

I 設立年月日

1939（昭和14）年11月17日 任意団体として発足

1965（昭和40）年11月22日 文部省社会教育局（現在は文部科学省生涯学習政策局）所管の社団法人となる。

2012（平成24）年04月01日 公益社団法人へ移行

II 定款に定める目的

本公益社団法人は、動物園、水族館事業の発展振興を図ることにより、文化の発展と科学技術の振興ならびに自然環境の保護保全に貢献し、もって人と自然が共生する社会の実現に寄与することを目的としている。

III 定款に定める事業内容

1. 動物園水族館に関する調査研究事業
2. 動物園水族館に関する教育普及事業
3. 動物園水族館に関する種保存事業
4. 動物園水族館に関する支援事業
5. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

IV 監督機関に関する事項

内閣府公益認定等委員会

V 会員の状況

1. 会員の現状

種類	2025年3月末	前期末比較増減	備考
正会員	140名 (動物園91、水族館49)	動物園 +2 水族館 -1	入会：(公財)日本モンキーセンター、ごかつら池どうぶつパーク 退会：高知県立足摺海洋館
維持会員	98団体、1名	+6団体-2団体	

2. 正会員の異動に伴う入退会

2024年度期間中：27名退会、27名入会（2024年度4月1日付け24名入退会）

VI 事務所の所在地

東京都台東区台東4-23-10 ヴェラハイツ御徒町402

VII 総裁・役員等に関する事項

1. 総裁に関する事項

総裁 秋篠宮文仁皇嗣殿下 1988年(昭和63年)5月25日 推戴

2. 役員に関する事項

役員一覧(2025年3月31日現在)

役職	氏名	理事就任年月日	代表理事業務執行理事就任年月日	現職	手当	執行担当・職務
理事	荒井 賢治	2022.5.26		宇都宮動物園園長	無	
〃	古川 健	2022.5.26		ふくしま海洋科学館館長	〃	ブロック代表理事
〃	渡部 浩文	2024.5.28	2024.5.28	東京都多摩動物公園園長	〃	総務担当理事
〃	坂東 元	2020.6.8		旭川市旭山動物園統括園長	〃	
〃	金子美香子	2022.5.26	2022.5.26	東京都井の頭自然文化園園長	〃	教育普及担当理事
代表理事	村田 浩一	2020.6.8	2022.5.26	横浜市立よこはま動物園園長	〃	会長
理事	大津 大	2024.5.28	2024.5.28	横浜・八景島シーパラダイス館長		安全対策担当理事
〃	高見 一利	2022.5.26		豊橋総合動植物公園園長	〃	ブロック代表理事
〃	村井 仁志	2023.5.23		富山市ファミリーパーク園長	〃	
〃	栗田 正徳	2024.5.28	2024.5.28	名古屋港水族館	〃	生物多様性担当理事
〃	今津 孝二	2018.5.17	2018.5.17	アドベンチャーワールド園長	〃	ブロック代表理事 地域委員会委員長
〃	村上 寛之	2024.5.28		海遊館館長	〃	
代表理事	多々良成紀	2023.5.23	2024.5.28	宇部市ときわ動物園園長	〃	副会長
理事	岡 秀彦	2020.6.8		市立玉野海洋博物館館長	〃	ブロック代表理事
代表理事	中村 雅之	2018.5.17	2018.5.17	マリンワールド海の中道館長	〃	副会長

理事	竹田 正人	2024.5.28		宮崎市フェニックス自然動物園園長	〃	ブロック代表理事
〃	佐藤 圭一	2023.5.23	2023.5.23	沖縄美ら海水族館統括	〃	調査研究担当理事
〃	原 久美子	2022.5.26	2022.5.26	日本動物園水族館協会専務理事	有	専務理事
監事	錦織 一臣	2020.6.8		東京都葛西臨海水族園園長	無	
〃	竹下 秀人	2020.6.8		静岡市立日本平動物園園長	〃	

VIII 議決機関

総 会：年 1 回開催、正会員で構成する。

理事会：理事 18 名で構成する。年 7 回開催した。（書面含む）

IX 執行機関

【会長、副会長、専務理事、執行理事】

執行委員会：担当執行理事、委員長、副委員長、委員を置き、事業計画に基づく専門事項の計画、執行を担当する。また、各委員会の下に専門部会を置く。

- ・総務委員会（3 名）：倫理、福祉、地域区分、定款・諸規定、重要な法人管理、その他の委員会に属さない事項に関する事
- ・教育普及委員会（4 名）：園館職員の人材育成、動物園水族館雑誌の発行、一般に対する普及啓発活動に関する事
- ・安全対策委員会（5 名）：園館施設・職員の安全及び衛生対策、災害対策、危機管理などに関する事
- ・生物多様性委員会（5 名）：世界・国内戦略、資源確保、域外保全、種保存などに関する事
- ・調査研究委員会（4 名）：学術研究の調査・推進、アニマルウェルフェア・動物栄養の調査研究などに関する事
- ・地域委員会（5 名）：地域園館の活性化、人材育成、災害・安全対策など地域間連携、加盟園館、維持会員の拡大などに関する事

地域別会議：各ブロックに代表理事をおき、ブロック内協議会、研修会、研究会等を開催する。

- 関東東北・北海道ブロック ○中部ブロック ○近畿ブロック
○中国四国ブロック ○九州沖縄ブロック

X 将来構想室：会長直轄の組織とし、将来構想室長を置く。JAZA の中長期的な将来ビジョンや戦略を策定する。

XI 事務局：専務理事、事務局長、職員 5 名

XII 諮問機関

顧問（3名）：専門知識を有し、理事会が推薦した者

会友（104名）：園館長歴5年以上、及び特別な功勞のあった者で、理事会が承認した者

XIII 監査機関

監事（2名）：動物園から1名、水族館から1名を選出

第2章 事業概要

1939（昭和14）年に任意団体として発足し、2012（平成24）年には公益法人としての認可を受けた日本動物園水族館協会（以下：「JAZA」という。）は、この認可を契機に執行委員会制度の下で体制強化を図ってきた。

2013（平成25）年には、10年後の動物園・水族館がめざす姿「10年ビジョン」を策定し、いのちの素晴らしさ、儚さ、大切さを実感し、学び、伝える「いのちの博物館」の実現に向け、加盟園館と連携して様々な事業を展開してきた。その10年も2022（令和4）年で最終年を迎え、総括を行い次世代に向けた新たなビジョン策定を進める必要があることから、広報戦略室を会長直轄の将来構想室として再編し、中長期的な方向性を示す「将来構想」の策定作業に2023（令和5）年度から2か年計画で着手してきた。

これまでに園館職員を対象としたワークショップや属性別のアンケート調査、ブレインストーミングなどを実施し、2024（令和6）年度通常総会に素案を示し、その後も継続して有識者ヒアリング等を実施し、2025（令和7）年度の総会において「JAZA 将来構想 2025」として承認を目指す。

また、もう一つの大きな取り組みである WAZA 2023 Animal Welfare Goal が設定する2つの目標への対応を進めた。1つ目の目標である「2024年11月末までに、WAZA 地域協会会員は WAZA が承認した特定の要素が含まれているアニマルウェルフェア評価プロセスを導入すること」については、2024年11月5日に達成した。2つ目の目標である「WAZA のすべての加盟機関は、WAZA が承認した適切なアニマルウェルフェア評価プロセスを、プロセスの承認から5年以内に遵守すること」については、2023年に WAZA 加盟の10園館でアニマルウェルフェア評価を実施した後に WAZA に承認されたアニマルウェルフェア評価の追加要件があるため、その確認をもって達成となる予定である。今後は地域協会（JAZA）傘下でアニマルウェルフェア評価が未実施の130園館でアニマルウェルフェア評価を進めて行くことになるため、これを見据え2024年度末には評価員講師の養成研修を実施し、体制を整えた。

組織体制においては、従来の執行委員会が理事を委員長として運営していた方式から、執行理事と委員長（執行理事兼務可能だが原則役職に縛りなし）を分けるなど若手登用の機会を増やすとともに、柔軟性のある事業執行を目指した。また、調査研究委員会に属していたアニマルウェルフェア研究部の監査グループを総務委員会に移管し、新たに「アニマルウェルフェア部」として組織を改編した。

一方で、JAZA を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、希少野生動物の保護増殖の重要性に加え、飼育環境に対するアニマルウェルフェアの問題など市民の目も非常に厳しいものとなっている。さらに、危機管理対策など喫緊の課題にも迅速かつ効果的に対応する必要がある。このような状況の中で、各執行委員会は連携を強化し、これらの課題解決に果敢に取り組んでいく必要がある。

第3章 実施事業

I 将来構想室事業

2024年度初めにJAZA将来構想の素案を完成させ、5月の年次通常総会において素案を提示した。その後、一般の方やJAZA加盟園館職員を対象としたアンケートや有識者に対するヒアリングなどを実施し、2025年初めに素案の改訂版となる原案を完成させた。さらに、年度末までに原案に関するアンケート（パブリックコメント）調査を実施した。

将来構想の策定は順調に進んでおり、2025年5月の年次通常総会で予定通り完成版を公表できる見込みである。

なお、将来構想は公表後に一定の期間で達成することが求められることから、構想を達成するための具体的な取り組みを示すアクションプランが必要となるが、このプランは個別具体の事業を推進する各執行委員会が策定することになるため、執行委員会の委員長に対して説明と依頼を行った。2025年度中にアクションプランの取りまとめを行う予定である。全体として、2024年度事業は、計画通り実施することができたと言える。

1. 執行体制

将来構想室長1名。会長直轄の組織として固定の室員は編成しない。必要に応じて会長、事務局、会員職員を招集する。

2. 事業の実施

(1) 会議の開催

- 1) 将来構想室会議（ウェブ会議） 2024年5月1日、5月16日、5月20日、6月15日、7月18日、8月8日、8月30日、10月19日、11月15日、12月12日、12月19日、2025年1月8日、1月17日、2月2日、2月27日

主な検討事項

- ・総会で提示する将来構想素案の検討。
- ・策定工程の見直しと素案に対する意見の確認、共有。
- ・素案に対する有識者からの意見聴取の実施検討。
- ・将来構想素案の修正案検討。
- ・将来構想原案の検討
- ・将来構想原案の文面、デザイン、イラストについて検討。
- ・オンラインアンケートによるパブリックコメント及び会員園館や協力者からの意見聴取に関する調査内容の検討。
- ・ブレインストーミングの結果について検討

2) ブレインストーミングの実施（ウェブ会議）

2024年4月20日、24日

- ・2024年度総会で提示する将来構想素案を検討。

2024年9月11日、12日

- ・アンケート及び有識者ヒアリングの結果をもとに将来構想案素案の修正方針を検討。

3) 有識者意見交換会（ウェブ会議）2024年8月20日

- ・将来構想案素案に対する有識者の意見聴取。

4)ブレインストーミング参加者の意見交換会（ウェブ会議）2024年12月5日

- ・ブレインストーミング参加者から将来構想原案の案に対する意見聴取

(2) 会議以外の事業活動

- ・JAZA 将来構想素案説明プレゼンテーション動画作成、配信 2024年6月（オンライン）
一般の方およびJAZA加盟園館職員のそれぞれを対象としてJAZA 将来構想素案を説明する動画を作成し配信
- ・JAZA 将来構想素案に対する意見募集アンケート実施 2024年6月21日～7月15日（オンライン）
一般の方およびJAZA加盟園館職員のそれぞれを対象としてJAZA 将来構想素案に対する意見募集のアンケートを実施
- ・JAZA 将来構想原案の作成 2025年1月末
JAZA 将来構想素案に対して寄せられた意見を基に素案を修正し、原案を作成
- ・JAZA 将来構想原案に関するアンケート（パブリックコメント）調査実施
2025年2月13日～3月7日（オンライン） 将来構想原案について加盟園館の職員や協力者、および加盟園館の利用者を含む一般を対象としたアンケートを実施

II 総務委員会事業

総務委員会は協会の根幹となる定款、規定等の整備、動物倫理福祉のあり方の検討、情報発信の企画調整、動物の栄養の検討、水族館にかかる調整・調査などの事業を実施している。

情報システム運営部においては、公開・非公開のHPおよびWEB会議等における情報システム部の役割の検討を行っている。

水族館部においてはイルカを含む繁殖支援事業を継続したほか、WAZA水族館委員会との熱帯性生物の持続可能な入手に関する意見交換会等を行った。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長、副委員長、委員1名

情報システム運営部：部長、部員4名

水族館部：部長、部員5名

(2) 委員会、部会の開催

次の委員会・部会を開催し、関係事業を実施するため、議題に基づく意見交換、検討、問題解決、意思決定等を行った。

1) 総務委員会

部会長との電子メールによる情報共有（随時）

倫理規程に係わる会員からのヒアリング 2025年3月17日

2) 情報システム運営部会

開催日：2024年6月19日 7月8日、 9月3日 開催方法：ウェブ会議

議 題 公開HPの内容更新と活用促進（いきもの学びネット）「飼育動物検索」など

3) 水族館部会

開催日：2024年9月14日 開催方法：ウェブ会議

議 題：WAZA 水族館委員会からの問い合わせに係わる対応について

2. 事業の実施

情報システム運営部

- (1) 海外地域協会の動向収集
- (2) 飼育動物検索ページの情報更新
- (3) いきもの学びネットの利用促進
- (4) 「会員園館からのお知らせ」の利用促進
- (5) 公開 HP の表現を随時更新

水族館部

- (1) 繁殖支援事業
 - ・ 京都水族館
 - ・ 登別マリパークニクス
 - ・ 鯨類プロジェクト(配偶子バンク事業)立ち上げ
- (2) 国内ラッコ情報収集は現地調査ができず進捗なし。シロワニ調査実施
- (3) WAZA 水族館委員会との打合及び WAZA 年次総会でのパネルディスカッション参加

3. その他

- (1) 後援名義等の審査 34 件

III 教育普及委員会事業

本委員会を構成する教育研修部・普及啓発部の両部において部会会議を開き、令和6年度の事業に関する準備・実施等に関する討議・打ち合わせを経て、諸事業が遅滞なく実施されるように努めている

環境省との「生物多様性保全の推進に関する基本協定」に基づく事業や取り組み等には積極的な関与を継続し、(公社)日本動物園水族館協会の存在意義や保全活動内容を社会に広く周知するために努力している

「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」の後継事業である「2030 生物多様性枠組実現日本会議 (J-GBF)」へ参画している。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長1名 副委員長1名 委員2名

教育研修部：部長1名 部員6名

普及啓発部：部長1名 部員5名

(2) 委員会・部会の開催

第1回教育普及委員会会議

開催日：2024年8月8日 開催方法：対面会議 (ニフレル)

議 題：①J教育研修部の活動について

②普及啓発部の活動について

教育研修部

- 1) 教育研修部臨時会議
開催日：2024年6月19日 開催方法：ウェブ会議
議 題：①新体制確認②飼育技師試験について
- 2) 教育研修部臨時会
開催日：2024年7月5日 開催方法：ウェブ会議
議 題：一般公開HPに掲載している「飼育技師資格認定について」説明文の修正検討
- 3) 教育研修部臨時部会
開催日：2024年7月16日 開催方法：ウェブ会議
議 題：飼育技師（上級）試験について
- 4) 第1回教育研修部会
開催日：2024年8月7-8日 開催方法：対面会議（ニフレル）
議 題：①飼育技師試験について（上級・一般）②ブロックからの意見への対応検討（受験料・開始時間・出題範囲等）③スケジュール確認④受験料改定（来年度から値上げを予定）⑤来年度の実施に向けた検討⑥その他
- 5) 教育研修部臨時部会
開催日：2024年11月14日 開催方法：ウェブ会議
議 題：試験問題の確認
- 6) 第2回教育研修部会
開催日：2025年2月6-7日 開催方法：対面会議（御徒町貸会議室）
議 題：①試験採点会議②飼育技師試験結果報告まとめ③来年度の実施に向けての検討（内容・スケジュール）

普及啓発部

- 1) 第1回普及啓発部会
開催日：2024年9月5日 開催方法：ウェブ会議
議 題：①今年度の参加型研修会の実施について②いきもの学びネットの運用について③環境省との連携事業について④JAZAネイチャーポジティブ宣言について⑤教育普及事業に関するアンケートの実施について⑥動物愛護標語コンクールに関する審査員・参加園からの意見の確認（第50回目の節目の年にあたり）
- 2) 第2回普及啓発部会
開催日：2025年2月27日 開催方法：対面（上野動物園）
議 題：①今年度の参加型研修会の報告と次年度検討②いきもの学びネットの廃止と新たなコンテンツの検討③環境省との連携事業保全シンポジウム参加報告④JAZAネイチャーポジティブ宣言検討⑤来年度事業検討（動物愛護標語コンクール50周年企画の実施、中央行事への参加等）

2. 教育研修部事業

(1) 飼育技師資格（一般・上級）認定試験

2024年 9月13日 案内・要綱を告知

2024年10月 1日 一般の試験問題集、試験範囲（一般・上級）資料掲載予定

2024年10月 1日～10月15日 今年度の飼育技師資格認定試験申し込み受付

試験日 2025年1月15日

受験者 506 名（上級129 名、一般動物248 名、一般水族129 名）

2025年2月21日 認定委員会（書面開催）

合格発表 2025年3月10日

（上級90名【合格率70%】、一般動物200名、一般水族105名【動物水族81%】）

- ・試験実施要綱に一般、上級の目的を詳しく記載
- ・合格発表は受験番号のみに変更
- ・受験料は現金書留に加え振込方式を追加
- ・上級試験：3年目となるが、問題と正答率を分析し、出題範囲等を検討して実施予定

(2) 新・飼育ハンドブック「繁殖関係資料」の改訂

資料編記載の繁殖賞データについては、JAZA会員HPへの掲載について今後調整する。

3. 普及啓発部事業

(1) 動物園・水族館参加型研修会（ワークショップ）

- ・動物園

2024年12月5-6日 那須サファリパーク担当で開催

テーマ「人との関わりから「種の保存」を促すサファリパークのツアーガイドを企画する」

- ・水族館

2024年11月14-15日サケのふるさと千歳水族館担当で開催

テーマ「サケを題材に、人と生きものの関わりを学ぶ体験型プログラムを開発する」

(2) JAZA主催の動物愛護に関する標語募集

- ・環境省の後援
- ・ポスター、メダル等の発注

(3) 環境省主催のイベントへの参加

- ・今年度の「どうぶつ愛護フェスティバル」は2024年9月21日に屋外行事（駒沢オリンピック公園）、23日に屋内行事（国立科学博物館講堂）が開催された。屋外行事にはJAZAとしての参加はしなかった。屋内行事では村田会長が講演会の演者として登壇した。

(4) ネイチャーポジティブに関する環境省との連携

- ・2030 生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）行動計画の進捗を追記して提出
- ・6月6日にJ-GBF 幹事会に参加（金子）
- ・9月9日にJ-GBF 総会に参加（村田会長、金子）

(5) サバ州保全活動プロジェクトへの協力

(6) いきもの学びネットの運用

- ・2024年8月14日 情報システム部との打ち合わせ ウェブ会議
教育普及委員会としてはいきもの学びネットを閉鎖する方向で検討

情報システム部と方向性について打ち合わせし、閲覧状況や HP 変更の費用負担について確認することとした。

(7) 生物多様性委員会との環境省関連教育普及事業での協働

- ・今年、環境省と JAZA の生物多様性保全に関する協定締結 10 周年にあたって生物多様性委員会が企画した保全シンポジウム「生物多様性保全の 10 年 ～動物園・水族館の挑戦と未来への展望～」運営に協力（委員長、普及啓発部員 2 名が運営に参加）
2025 年 2 月 16 日（東京国立博物館 平成館 大講堂）
JAZA、環境省、（公財）東京動物園協会の共催 生物多様性委員会と教育普及委員会で担当
参加者 265 名

IV 安全対策委員会事業

安全対策部、災害対策部、感染症対策部が、事故や災害、感染症等に対する事前の準備と予防対策、発生時の対応などについて、会員園館への情報発信等の事業を行っている。

安全対策部は、安全な飼育や施設管理のための会議開催、事故防止のための情報提供などを行った。

災害対策部は、台風等による大雨被害や地震被害等の情報収集を行い情報共有した。

感染症対策部は、国内外での感染症事例について、会員園館への情報共有と注意喚起を行った。

1. 執行体制と各部の課題対応

(1) 執行体制の変更

安全対策委員会：執行理事 1 名、委員長 1 名、副委員長 1 名（部長兼務）

安全対策部：部長 1 名、部員 5 名→6 名（1 名増員）

災害対策部：部長 1 名、部員 5 名→14 名

感染症対策部：部長 1 名、部員 5 名

- ・執行理事と委員長の兼務を解消
- ・安全対策部員の 1 名増員
- ・災害対策部員に関して、能登半島地震の経験から関東・東北・北海道ブロックを 3 ブロックに、各ブロック動物園 1 名、水族館 1 名の計 14 名に増員を行う

(2) 各部の検討課題対応

安全対策部：

- ・前年度の発生した 2 件の事故報告書の確定と会員専用 HP への共有
- ・今後は、報告收受後、半年以内に検証・共有されるよう進める
- ・事故報告フォーマットの作成と会員専用 HP への公開
- ・事故発生時は速やかな連絡および事故報告書の作成と共有を会員に依頼（後期園館長会議）
- ・動物輸送に関する動画共有を検討中

災害対策部：

- ・自然災害発生及びその恐れのある場合の連絡・情報共有基準を、大雨などで警戒レベル 4(避難指示)以上、震度 5 強以上の地震発生時とした（後期園館長会議で周知）
- ・ブロックごとに災害発生時に、災害対策部員に連絡と情報共有できる体制整備をおこなってもらうようブロックに依頼（後期園館長会議）

感染症対策部：

- ・国内で発生している高病原性鳥インフルエンザなどの情報を収集するとともに会員園館向けの注意喚起と情報発信を行った。

2. 安全対策部事業

(1) 各種会議の開催：次の会議を現地参集により開催した。

大型動物麻酔研究会	天王寺動物園	11月11, 12日
設備会議	名古屋港水族館	11月20, 21日
ゾウ会議	熊本市動植物園	11月26, 27日

(2) 大型動物麻酔研究会への新規加盟について

麻酔研究者免許を取得し、塩酸エトルフィンを入手後の入会申請にて審議する

(3) HPにおける注意喚起：以下注意喚起を実施した。

10月3日 掲示板 No.3244 飼育業務における安全対策の再確認について(注意喚起)更新
12月6日 掲示板 No.3279 安全対策向上のための事故報告書の共有及び報告様式について
12月6日 掲示板 No.3278 餌やり体験実施時における安全対策の再確認について(注意喚起)
1月29日 掲示板 No.3311 飼育業務における安全対策の再確認について(注意喚起)

(4) 部会開催

第1回：9月14日 ウェブ会議
第2回：3月6日 ウェブ会議

3. 災害対策部事業

(1) 新たな災害対策部の連絡体制構築

(2) 災害発生への対応：災害発生と共に被害状況等の情報収集を行った。一部に臨時休園館はあったものの、いずれも大きな被害は無かった。

対応した主な災害発生：

7月12日土砂崩れ 愛媛県松山市で斜面土砂崩れのため避難指示発令近隣動物園に安全確認実施

8月8日地震 日向灘を震源とする大規模地震発生。中国四国ブロック及び九州南部の各園館に対し安全確認実施

8月12日台風5号 岩手県、秋田県をはじめ被害の恐れがある園館にメール等で連絡、安全確認実施。

8月28日から9月2日台風10号およびそれに伴う大雨

近畿より西を中心に被害の恐れのある園館の安全確認を実施。

9月21日大雨 石川県能登地方で発生した線状降水帯による大雨に対し、被害の恐れのある水族館に安全確認実施

11月10日豪雨 (記録的短時間大雨情報) 沖縄園館の安全確認

1月13日宮崎で震度5弱、宮崎・高地に津波注意報発令、四国・九州園館の安全確認

(3) 部員増員に伴う選任

ブロックごとに動物園・水族館から1名ずつ部員を配置するにあたり、北海道2名、南関東・山梨・新潟2名、中部1名、近畿1名、中四国1名、九州・沖縄2名の計9名を新たに部員に選任する。4月から新体制に移行。

(4)環境省水鳥救護研修センター運営協議会（8月）委員長出席により情報収集を行った。

- ・環境省地域における支援体制事例の情報収集
- ・公益社団法人日本獣医師会との相互連携の情報収集

(5)災害時救援活動の連携体制：物資運搬等支援のための運搬方法や合同訓練等について赤十字飛行隊に協議を行ったが、動物への物資輸送支援は困難との回答。

(6)能登半島地震を教訓に、現状に即した定款の見直しを検討

(7)首都直下型地震等への対策の調査研究

- ・衛星電話の運用調査、見積聴取実施。
- ・事務局機能移転場所検討

(8)部会開催

第1回：10月3日 ウェブ会議

第2回：1月23, 24日 富山市ファミリーパーク、のとじま水族館視察

4. 感染症対策事業

(1)全国的に注意を要する感染症の監視、情報収集、注意喚起の実施

- ・環境省、厚労省との情報共有、連絡会議への参加

(2)個別発生感染症の情報収集、注意喚起

- ・7月16日アシカアデノウィルス感染症の発生についてHPにて共有
- ・9月10日ゾウヘルペスウィルス感染症陽性個体の死亡(報道)
- ・11月25日「HPAI発生に関する注意喚起」発出

(3)高病原性鳥インフルエンザ感染症対策

- ・発生事例確認及び情報収集、注意喚起の実施
- ・鳥インフルエンザ対応の講習会を環境省と協力して実施

7月26日 汐留ビジネスフォーラムにて座学研修(YouTubeにてアーカイブ配信)

9月4日 環境省主催「動物園等におけるHPAI対応のための講習会及び現地実務実習」
(関東・東北ブロック：仙台市八木山動物公園)

10月10日 環境省主催「動物園等におけるHPAI対応のための講習会及び現地実務実習」
(中部ブロック：名古屋市東山動植物園)

11月12日「感染症（HPAIの治療と薬剤耐性の問題）に関する意見交換会議」実施
塩野義製薬、北大迫田先生、部長出席

5. その他

安全対策委員会の開催：6月23日現委員及び辻本前委員長で執行体制、年間計画、懸案事項等の確認を行った。

能登半島地震におけるのとじま水族館の被災状況とJAZAの支援についてWAZAでポスター発表を実施した。

V 生物多様性委員会事業

今年は環境省と「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」を締結した10年目となる。この協定に基づき実施してきた保全活動や科学的知見の集積は着実に成果をあげていると同時に、問題点も出てきており、今後の事業発展のために各事業で対応が必要となっている。

昨年度には(一社)水族館協会と保全に関する包括的な協定を締結し、実質的な活動が行えるように魚類など個別の類別作業部会で協議を始めている。また、今年度はブータン王立自然保護協会と技術支援協力に関するMOUを締結し、JAZA加盟園館等から職員を派遣するなどした。このように協会内だけではなく外部機関との協働の機会を増やし保全活動の幅を広げているが、より具体的な活動に結び付けていくことが課題となっている。

また、協会内外での倫理やアニマルウェルフェアに対する意識の高まり、より適切な飼育・繁殖の推進の必要性などから各種ガイドラインを策定しており、各類別作業部会で進捗状況に差があるものの、来年度末までの完成を目指し作業を進めている。倫理やアニマルウェルフェアに関しては生物多様性委員会内だけで解決できない問題もあり、協会全体として解決策を見出していきたい。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長1名、副委員長1名、委員3名、外部委員2名

国際保全事業部：部長、部員4名

保全戦略部：部長、副部長、部員5名

種保存事業部：部長、部員12名

作業部会：類別事業調整者、類別事業副調整者、種別計画管理者・個体群管理者、専門技術員

(2) 委員会、部会の開催

次の委員会・部会を開催し、関係事業を実施するため、議題に基づく意見交換、検討、問題解決、意思決定等を行った。

1) 第1回 生物多様性委員会

開催日：2024年4月28日～29日

開催地：名古屋港水族館（類別事業調整者はweb）

出席者：委員長、副委員長、委員（各部長）、種保存事業部員（類別事業調整者）

議 題：令和5年度種保存事業の進捗状況評価及び令和6年度実施計画について

2) 第2回 生物多様性委員会（三部合同会議）

開催日：2024年6月18日～19日

（会期中、国際保全事業部会、保全戦略部会、種保存事業部会をそれぞれ開催）

開催地：名古屋港水族館

出席者：委員長、副委員長、委員（各部長）、外部委員、部員

議 題：①令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画の概要報告

②令和6年度事業の課題

3) 生物多様性員会とJAZA三役・事務局との意見交換会

開催日：2024年10月31日

開催地：ウェブ会議

出席者：委員長、副委員長、保全戦略部長、種保存事業部長
会長、副会長、専務理事、事務局長

議 題：①生物多様性委員会の基本方針の確認
②アニマルウェルフェアや移動確認書について
③適正施設ガイドラインについて

4) 第2回 生物多様性委員会

開催日：2024年11月22日～23日

出席者：委員長、副委員長、委員（各部長）

開催地：恩賜上野動物園

議 題：①令和7年度事業計画・予算案について
②各部の課題、委員会業務全般に関わる懸案事項等について

(3) 国際保全事業部

1) 国際的な連携について

東南アジア動物園水族館協会総会、IUCN SSCの保全計画専門家グループ会議ならびに世界動物園水族館協会総会などに参加し、情報の発信ならびに収集を行った。

世界動物園水族館協会のWAZA2030保全目標ワークショップに参加し、情報収集とJAZAの状況説明を行った。

2) 国際的な個体群管理事業への対応について

レッサーパンダの個体群管理計画、マレーグマ個体群管理計画において、海外との連携を推進した。

Joint TAG Chairs会議、国際オランウータン国際個体群管理ワークショップに参加し、JAZAの事業に関する情報の発信と、他の地域協会との情報共有を推進した。

世界動物園水族館協会の個体群管理委員会に参加し、情報の収集を行った。

3) Species360・ZIMS対応について

Species360との連絡窓口を務めるとともに、ZIMSの日本語精度の改善を進めた。また、ZIMS for Studbooksについて、JAZA血統登録簿データベースの管理や、使用方法に関する講習を行った。

4) マレーシア・サバ州との生物多様性保全に関わる連携事業について

国内関係者会議を4月と12月に開催した。また、教育普及事業実務担当者会議を2月に開催した。

5) 経済産業省対応について

経済産業省との連携会議を11月22日に開催した。

(4) 保全戦略部事業

1) 種保存事業の実施に係る助言及び支援に関する事項について

種保存事業の推進のための各種共同研究の実施についての組織的取決めがなく、根拠が薄弱との指摘があったことから、令和6年5月1日付で、JAZA生物多様性員会と岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室との間で、共同研究の実施に関する覚書を締結した。

令和6年度は、本覚書に基づき、申請のあった、アムールヒョウ、ユキヒョウ、ユーラシアカワウソ、マサイキリン・アミメ系キリン、クロサイ、ミナシロサイについて共同研究を実施した。

2) 配偶子バンク及び遺伝子資源保存等に関する事項について

ZARAS（動物園水族館繁殖研究アライアンス）とのとの協定に基づく事業の実施体制の一層の整備を図る必要があるが、本協定の内容が十分に理解されていない部分もあることから、説明に努める。予算執行においても、あいまいな部分があることから、令和7年度以降、募集と配分を適切に実施するように努める。

なお、令和6年は、ツシマヤマネコの採精等の経費について、分担している。

(5) 種保存事業部事業

1) JCP の推進

① 業務体制

部会で部員と問題を共有し、対応を検討した。事務手続きなど定型のものはフォーマットを会員ページに掲載することを検討する。

② 海外との連携

輸出入に関しては個別に調整できているが、GSMPなどの会議に言葉の問題で参加をみあわせなければならないこともある。委員会として問題は共有しているが、解決策を見いだせていない。

③ 検疫

大型動物の検疫施設については情報収集継続

④ 非会員施設との連携

非会員への動物移動に関しては施設確認など個別に対応しているが、手続きに手間取る事も多々ある。

2. 主要事業

(1) 国際保全事業部

1) 国際的な連携、協働を要する展示生物の継続的確保や保全への取り組みに関する事項

① 国際会議への参加

- i 台湾の台北で10月に開催された東南アジア動物園水族館協会(SEAZA)年次総会に国際保全事業部員が参加し、個体群管理情報の共有に関する意見交換を行った。
- ii オーストラリアのシドニーで11月に開催されたIUCN SSC 保全計画専門家集団(CPSG)年次会議に国際保全事業部員が参加し、意見交換と情報収集を行った。
- iii オーストラリアのシドニーで11月に開催された世界動物園水族館協会(WAZA)年次総会に国際保全事業部員が参加し、情報収集を行った。
- iv イギリスのエディンバラで5月に開催されたJoint TAG Chairs 会議、国際オランウータン国際個体群管理ワークショップに参加し、JAZAの事業に関する情報発信と他の地域協会との個体群管理に関する情報共有を行った。
- v 5月にReverse the Red 事務局の主催でオンラインで開催された世界動物種会議(World Species Congress)に参加し、JAZA 亀井園館の取り組み事例に関するプレゼンテーションを行った。また、この会議に対するJAZA 会員園館の参加を促した。
- vi GSMP 会議が開催された場合に当該種の計画管理者を派遣する予定であったが、2024年度にGSMP 会議は開催されなかった。
- vii 米国のシアトルで3月に開催されたWAZA 保全目標2030の実施に向けた協議のためのワークショップに参加し、情報収集とJAZAの状況説明を行った。

- ② アジア及びその周辺地域でのネットワーク構築・サポート事業
- i 東南アジア動物園水族館協会(SEAZA)に対して、第3回アジア地域協会連携会議での個体群管理に関する合意事項を推進すべく協議してもらえよう働きかけた。
 - ii 中国動物園水族館協会(CAZG)との連携強化を目的として、12月にCAZG幹部が白浜を訪問した時に今後の連携について協議する場を設け、具体的な内容を協議した。
 - iii インドネシアに生息している4種を対象としたGSMPへのJAZAとしての関与の方法を検討し、スマトラトラのGSMPに継続的に参画していくことができるよう調整を図った。
 - iv 将来的にJAZAとの連携を希望しているアラブ首長国連邦動物園水族館協会の設立準備状況について、アルアイン動物園等を窓口として情報収集を進めた。
 - v ブータンのシロハラサギとオグロゾルの保全を目的として、種保存事業部と共同してブータン王立自然保護協会(RSPN)とMOUを締結した。
- ③ マレーシア・サバ州との生物多様性保全に関わる連携事業
- i 令和5年度第一回サバ州生物多様性保全推進プロジェクトチーム(PT)会議を4月にオンラインで開催した。
 - ii 令和5年度第二回サバ州生物多様性保全推進プロジェクトチーム(PT)会議を12月にオンラインで開催した。
 - iii 上半期に3回、サバ州と日本をオンラインで結び、小学生を対象とした普及啓発プログラムを実施した。
 - iv 教育普及事業実務担当者会議を9月にオンラインで開催した。
 - v 2月に大阪で、普及啓発ワークショップと教育普及事業実務担当者会議を開催した。
- ④ 飼育下個体群管理のための飼育動物個体情報の管理共有推進
- i Species360との連携により東京動物園協会の支援の下でZIMSの日本語精度の向上を進めた。
 - ii 1月に東京で開催された個体群管理講習会にあわせてZIMS for Studbooksの使用法説明講習を実施した。
 - iii Species360との個別協議やSpecies360理事会への参加により、JAZAやアジア地域協会のSpecies360への影響力強化を図った。また、JAZA会員園館に所属するSpecies360の理事を2名に増員した。
 - iv JAZAがZIMS for Studbooksで管理している登録簿データのアドミニストレーターとして、計画管理者の追加変更や登録内容修正などのデータベース管理を行った。
 - v Species360との連絡窓口を務めるとともに、ZIMSに関する問い合わせ等に対応した。
 - vi 5月にイギリスのエディンバラで対面により、また9月にオンラインで開催されたWAZAの個体群管理委員会(CPM: Committee for Population Management)に参加し、世界的な個体群管理に関する課題やWAZAの2027個体群管理目標について協議した。
 - vii WAZA個体群管理目標2027の案に基づき、理事会や地域委員会、各ブロック園館長会議で説明するとともに、事前に対応を開始するよう依頼した。
 - xii WAZAのCPMから国際血統登録担当者の変更に関する照会を受け、適当性について検討を行い、CPMあてに回答した。(ワタボウシタマリン、シロオリックス)

⑤ 海外情報の会員周知

- i WAZA の個体群管理目標 2027 やリバース・ザ・レッド キャンペーンなど、各種海外情報を関係者に周知した。
- ii 情報の翻訳委託を実施した。

2) 正会員所属園館の展示生物の収集に関する情報提供、助言及び支援に関すること（ただし、保全戦略部に属する業務を除く）

① 経済産業省との連絡調整会議

11月22日に経済産業省本庁舎で開催し、動物の輸出入に関する手続き確認やJAZA事業への支援の依頼を行った。

- ② 会員園館や類別事業調整者等からの問い合わせ等に対する対応を行った。
（保護収容動物の輸出に関することなど）

3) 種保存事業の実施に係る助言および支援に関すること（ただし、保全戦略部に属する業務を除く）

① 類別事業調整者、種別計画管理者への支援および助言を実施

- i 海外からの個体の入手に関する調査を実施（マレーグマ）
- ii 海外の類別事業調整者、種別計画管理者から国内の関係者への連絡を受け、橋渡しを実施

② その他事業

必要に応じて実施

4) その他国際保全業務に関する事項

必要に応じて実施。

(2) 保全戦略部

1) 日本の動物園水族館の生物多様性保全戦略に関する事項

① 生物多様性委員会としての福祉を含む保全戦略を検討する

これまでの10年を振り返るとともに、次の10年のビジョンとなる「JAZA 将来構想」の検討を踏まえ検討。（予定）

② JCP の基本的な考え方について戦略的見直しを図る。

種保存事業部と連携し検討。（予定）

2) 生息域内・域外の統合された保全への取り組みに関する事項

① 生物多様性保全の推進に関する基本協定書に基づく取り組みの着実な推進

i 環境省からの受託業務

a) ツシマヤマネコ飼育下繁殖及び飼育管理に係る検討業務 * 環境省

- ・令和6年度第2回ツシマヤマネコ飼育管理検討会議

2024年7月25日～26日 於：井の頭自然文化園（ウェブ会議併用）

- ・令和6年度第2回ツシマヤマネコ飼育管理検討会議

2024年9月17日～18日 於：福岡市動植物園（ウェブ会議併用）

- ・会議の結果を踏まえ、令和6年-7年ツシマヤマネコ飼育下繁殖計画（案）を作成、環境省九州地方環境事務所の承認を得たうえで順次個体移動を実施した

ツシマヤマネコ飼育下繁殖及び飼育管理に係る検討委託業務

ツシマヤマネコ野生順化ステーションにおける繁殖に関する覚書に基づき、ツシマヤマネコ野生順化ステーションでの繁殖に向けたペアリング時の待機や監視、繁殖に係わる指導や助言などを行なった

- ・ 2025年2月10日～13日および2025年2月17日～20日 各1名

b) ライチョウの野生復帰及び生息域外保全検討業務

- ・ 令和6年度第1回ライチョウ飼育管理検討会議

2024年10月30日～31日 ウェブ会議

乗鞍岳での野外雄からの採精結果や野生復帰事業の実施結果など、生息域内保全と連携した技術開発、飼育管理上の課題を検討、第2回会議に向け課題を整理

- ・ ライチョウ域外飼育個体からの野生復帰技術検討ワーキンググループ

2024年12月17日 オンライン

- ・ 令和6年度第2回ライチョウ飼育管理検討会議

2025年1月29日 於：恩賜上野動物園（オンライン併用）

- ・ 木曽駒ヶ岳へのライチョウ移動時死亡事故調査会による検討

2024年9月17日に実施した動物園から木曽駒ヶ岳へ繁殖個体を移送する際、3羽が死亡したことについて、外部有識者と含めた委員による調査会を設置し、事故内容を検証。報告書を作成した。

c) 希少野生動物の生息域外保全検討業務 * 環境省

ア) トゲネズミ類の飼育管理検討業務

- ・ 令和6年度アマミトゲネズミ飼育管理検討会議

2024年9月26～27日 於：金沢動物園（ウェブ会議併用）

- ・ 令和6年度第1回トゲネズミ類生息域外保全検討会議（環境省主催）

2024年10月29日 ウェブ会議

- ・ 令和6年度第2回トゲネズミ類生息域外保全検討会議

2025年1月28日 ウェブ会議

- ・ 会議の結果を踏まえ、移動繁殖計画を確定させたいうで順次個体移動を実施

イ) ミヤコカナヘビの飼育管理検討業務

- ・ 令和6年度宮古諸島の希少種保全・外来種問題に係る複数の事業関係者による連絡会議

2024年12月6日 於：宮古島市庁舎

- ・ 令和6年度ミヤコカナヘビ飼育管理検討会議

2024年12月19～20日 於：恩賜上野動物園（オンライン併用）

- ・ 令和6年度第1回奄美・沖縄希少爬虫類保護増殖検討会

2025年2月21日 オンライン

ウ) スジシマドジョウ類の飼育繁殖技術開発

- ・ 令和6年度タンゴスジシマドジョウの生息域外保全の実施に向けた連絡会議（環境省主催）

2024年11月11日 オンライン

- ・ 令和6年度ハカタスジシマドジョウ保全検討連絡会議

2025年2月7日 オンライン

エ) 希少野生動物の生息域外保全に関する連絡会議

- ・第1回会議を2024年8月28日に、オンラインで実施
協定に基づく各種取組について報告し、課題を共有。
- ・第2回会議を2025年2月17日に、恩賜上野動物園において、対面で実施。
協定に基づいた取り組み状況について報告し、来年度の課題等を共有した。

ii 受託業務以外の取り組みの実施

a) 小笠原産陸生貝類（カタマイマイ属など）

環境省主催の陸産貝類保全ワーキンググループに保全戦略部員が出席

- ・令和6年度第1回陸産貝類保全ワーキンググループ
2024年10月7日 オンライン開催

- ・令和6年度第2回陸産貝類保全ワーキンググループ
2025年2月4日 ウェブ会議

今年度、南西諸島の陸産貝類保全に関連し、次の会議に参加

- ・沖縄県産希少陸産貝類の生息域外保全に係る技術交流会等
2024年10月26日～27日 於：沖縄こどもの国他

b) 環境省担当官との連絡調整等

随時、メールや電話による打ち合わせを実施している。

② IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）との連携

国際保全事業部長がIPPM-OWSの副代表を、保全戦略部部長がIPPM-OWS生息域内保全作業部会の副部会長を務めているほか、コウノトリ計画推進会議をIPPM-OWSの生息域外保全作業部会と共同開催するなど、IPPM-OWSの組織運営や活動を共同で実施している。

③ 一般社団法人野生生物生息域外保全センターとの連携

令和4年度末に包括協定を締結。ミヤコカナヘビの生息域外保全でJAZAと連携した取り組みを実施。

3) 正会員所属園館の展示生物の収集に関する情報提供、助言および支援に関する事項（ただし、国際保全事業部に属する業務を除く）

① 正会員所属園館からの要望に応じて随時適切に対処。

要望がなく、実績なし。

4) 種保存事業の実施に係る助言及び支援に関する事項（ただし、国際保全事業部に属する業務を除く）

① 個体群管理ハンドブックの制作検討

海外地域協会（AZA,EAZA）を参考に内容の検討を行っているが、相互の組織体制等が異なり、作業が難航している。集団遺伝学、個体群統計学などの技術的内容に特化したものにする方向で引き続き取り組む。

② 個体群管理講習会（1回） 於：恩賜上野動物園

2025年1月23日 座学講習（オンライン併用） 対面11名・オンライン20名

2025年1月24日 座学演習 対面13名

講師5名で実施

③ 種保存事業の推進のための各種共同研究の実施

2024年5月1日付で、JAZA 生物多様性委員会と岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室との間で、共同研究の実施に関する覚書を締結した。令和6年度は、本覚書に基づき、申請のあった、アムールヒョウ、ユキヒョウ、ユーラシアカワウソ、マサイキリン・アミメ系キリン、クロサイ、ミナミシロサイについて共同研究を実施した。

④ 種保存事業作業部会、種別計画推進会議等への保全戦略部員の出席要請対応

10月の魚類作業部会、食肉類作業部会に部員が出席

5) 配偶子バンク及び遺伝子資源保存等に関する事項

① 既存配偶子バンクの維持管理の実施

配偶子タンクの設置場所：横浜市繁殖センター、仙台市八木山動物公園、東京都多摩動物公園、名古屋市東山動物園、神戸どうぶつ王国、名古屋港水族館、マリンワールド海の中道、海遊館、宇部市ときわ動物園、天王寺動物園

i 液体窒素の充填

定期的を実施している。

ii 維持管理のための消耗品等の購入

維持管理のための消耗品等の購入は年度末に指定施設からの請求に基づき実施

iii 保存配偶子の検査及び廃棄等の整理、処分

方針が定まらず保留

② 配偶子バンク指定施設の新規指定時の初期費用

今年度の新規指定は無かった。

③ 野生動物保全繁殖研究会大会への出席

9月に山口県（ときわ湖水ホール）にて開催された大会に部員2名が参加

④ ZARAS（動物園水族館繁殖研究アライアンス）との協定に基づく事業の実施

生体からの精液の採取をツシマヤマネコで実施

6) ワシントン条約緊急保護動物の寄託管理に関する事項 *経済産業省

事務局対応。必要に応じて対応。

7) 動物名検討事業に関する事項

① CPOSの動物リスト未掲載種の和名の検討を行う。

現時点で対応を要する案件がなく、実績なし。12月に事務局が実施する調査で未掲載種の飼育展示を開始した園館があれば対応。

② CPOSの動物リスト記載済みの種の和名の妥当性について随時、再検討を行う。

総務委員会情報システム運営部と、JAZA 公開ホームページの飼育動物検索時の表示に関する打合せを実施。

③ 動物名検討会議の開催 今年度は開催せず。

④ 事業の移管

本事業は3月10日の執行委員会規程改正にともない、調査研究委員会へ移管された。

8) 関係官公庁との連携協働に関する事項

① 環境省：生物多様性保全の推進に関する連絡調整会議の開催

2025年3月21日 於：恩賜上野動物園

②保全シンポジウムの開催調整

タイトル：保全シンポジウム 生物多様性保全の10年～動物園・水族館の挑戦と未来への展望～

主催：JAZA・環境省・公益財団法人東京動物園協会

日時：2025年2月16日（日）12時30分～16時10分

参加：265名

② その他の官公庁

対応を要する案件がなく、実績なし。

9) その他保全戦略業務に関する事項

部員1名が就任

(3) 種保存事業部

1) 種保存事業の実施に関する事項

① 類別作業部会開催

霊長類作業部会

食肉類作業部会

ペンギン・チドリ類作業部会

小型鳥類作業部会

両生・爬虫類作業部会

魚類作業部会

② 種別計画推進会議開催

コアラ計画推進会議

オオアリクイ計画推進会議

ニシローランドゴリラ計画推進会議

オランウータン計画推進会議

チンパンジー計画推進会議

テナガザル類合同計画推進会議

シシオザル計画推進会議

アビシニアコロブス計画推進会議

マレーグマ計画推進会議

ホッキョクグマ計画推進会議

ユーラシアカワウソ計画推進会議

チーター計画推進会議

アムールヒョウ計画推進会議

ユキヒョウ計画推進会議

アムールトラ・スマトラトラ合同計画推進会議

バンドウイルカ・カマイルカ合同計画推進会議

マレーバク計画推進会議

アジアゾウ計画推進会議

キリン計画推進会議

イヌワシ計画推進会議

- コウノトリ計画推進会議
- ライチョウ飼育管理検討会議
- ③ 外部委員等有識者招聘
 - i チーター計画推進会議
 - 一般社団法人どうぶつ疾病研究支援協会 宇根 有美 氏
 - 北里大学 教授 高野 友美 氏
- ④ ZIMS for studbooks 使用 100 種
- ⑤ ZOOM アカウント 2 アカウントを適宜運用
- 2) 初繁殖認定に関すること
申請された 25 種を審査
- 3) 関係官公庁との連絡協働に関すること
 - ① 経済産業省連絡会議
2024 年 11 月 22 日開催
 - ② 環境省連絡会議
2025 年 3 月 21 日開催
- 4) その他種保存事業に関すること
 - ① 日本ツル・コウノトリネットワーク
2024 年度総会参加 2024 年 9 月 28・29 日 西予市教育保健センター

VI 調査研究委員会事業

アニマルウェルフェアの向上を目標として、学術的視点から多様な取り組みが求められている。学術研究においては、動物実験倫理や ABS 問題など、国際的な基準や法律に基づく研究の在り方について議論を行っている。栄養研究部においては、会員園館が利用可能な栄養データベースの拡充と利用促進により、栄養の観点から動物福祉の向上に資する取り組みを行った。アニマルウェルフェア研究部（監査グループ）においては、WAZA2023 アニマルウェルフェア目標の達成に向けて、関連文書の整備を行った。また、研究グループにおいては、SEAZA 総会に出席し、各国におけるアニマルウェルフェア研究の事例調査、および普及啓発を目的としたシンポジウムの開催計画を策定した。

1. 執行体制

- (1) 調査研究委員会：委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 2 名
 - 1) 学術研究部：部長、部員 6 名で運営
 - 2) 栄養研究部：部長、部員 6 名で運営
 - 3) アニマルウェルフェア研究部：部長、部員 10 名で運営

2. 課題への対応状況

(1) 学術研究部

ABS 問題への対応を検討、その他、動物園水族館雑誌の投稿規定の改訂、技術者研究会のマニュアルの更新、研究倫理、ABS ルールに関する対応を検討中。

動物園水族館雑誌投稿規定の改定（宿題調査報告の発表者に関する要件拡大について）を行った。

三菱 UFJ フィナンシャルグループより提案の生物多様性研究助成金について、制度設計と要項等を策定した。

(2) 栄養研究部

栄養データベースの構築・会員園館への共有を開始してから1年が経過し、利便性の向上やデータベース運営に関する課題が出ている。利便性の向上を目指し、会員園館向けのアンケート調査票を作成し、技術者研究会やウェブでのアンケートを実施した。

(3) アニマルウェルフェア研究部

① アニマルウェルフェア監査グループ

WAZA 2023 Animal Welfare Goal の達成に向けた対応を行った。JAZA アニマルウェルフェア評価関連文書は、WAZA 事務局の確認、地域協会のレビュアーによる確認の後、必要に応じて要領等の整備・改正を行った。併せて、会員園館が参考とできるようアニマルウェルフェア方針の具体例を示した策定の手引きを作成した。

② アニマルウェルフェア研究グループ

アジアにおけるアニマルウェルフェアの現状把握、情報収集、アニマルウェルフェア研究グループの活動報告(発表予定)、来年度以降にアニマルウェルフェア研究部で行う助成金事業の制度設計や妥当な助成金額の確認のため台北 Zoo で行われた第 32 回 SEAZA カンファレンスへ、アニマルウェルフェア研究部員 2 名を派遣した。

3. 事業活動報告

(1) 学術研究部

1) 動物園水族館雑誌の発行 (年 4 回発行)

2) 技術者研究会の開催

- i 動物園技術者研究会 開催日：2024 年 12 月 17-19 日 開催場所：日本平動物園
- ii 水族館技術者研究会 開催日：2025 年 1 月 20-21 日 開催場所：京都水族館
- iii 海獣技術者研究会 開催日：2025 年 2 月 4-5 日 開催場所：ふくしま海洋科学館
- iv 各研究会の宿題調査

3) 研究成果の表彰に関する事項

技術者研究表彰、古賀賞(繁殖特別表彰)の推薦、およびベストプレゼンテーション賞・ベストポスター賞を選出した※今年度、古賀賞推薦なし

4) 動物園水族館雑誌・投稿規定の改訂および英文投稿規定の作成

(2) 栄養研究部

1) SEAZA 栄養ネットワーク(SNN)から招聘を受け、台北市立動物園で開催された第 32 回 SEAZA 年次総会に参加した。SNN が主催するワークショップにファシリテーターとして参加したほか、2019 年に行った飼育下マレーグマの栄養調査の結果を口頭発表にて報告した。また、SNN との連携を強化するためミーティングを行い、今後の活動方針や研究テーマなどについて意見交換した。

2) 会員に対する栄養素 DB 公開に関連するテーマで普及啓発シンポを開催

開催日：2 月 29 日 オンライン開催

3) 2025 年度 第 1 回栄養研究部部会の開催

開催日：12 月 2 日 大阪海遊館にて実地開催

(3) アニマルウェルフェア研究部

アニマルウェルフェア監査グループ

1) WAZA 事務局、および地域協会によるレビューに基づき、以下のアニマルウェルフェア関連文書の整備改定を実施した。

- ・アニマルウェルフェア・チェックリストの改定
- ・アニマルウェルフェア評価実施要領の改定
- ・アニマルウェルフェア自己評価実施要領の新設
- ・アニマルウェルフェア評価員研修の講師養成研修を実施（2025年3月2日～4日実施、受講者11名、講師3名 Wild Welfare）

2) JAZA 会員施設に対するアニマルウェルフェア評価の実施についての準備検討

- ・ブロックごとに被評価園館を選定（2025年度から評価実施）
- ・対象園館への説明会やマニュアル、評価フロー等の提供
- ・評価員養成者研修の実施計画の策定

アニマルウェルフェア研究グループ

1) 海外園館でのアニマルウェルフェア研究に関する情報収集を目的として、部員2名を SEAZA 総会に派遣した。

2) 会員に対するアニマルウェルフェア研究の普及啓発を目的としたシンポジウムを開催（2025年2月10～12日実施）

VII 地域委員会・ブロック事業

地域委員会は、協会の全国地域5ブロックを統括、指導、調整する組織で、地域園館の活性化、人材育成、災害・安全対策など地域間連携、加盟園館・維持会員の拡大、地域での協会事業など次の事業を実施した。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長1名 副委員長1名 委員3名（ブロック代表理事）

(2) 委員会の開催

1) 第1回地域委員会

開催日：2024年10月8日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長、副委員長、ブロック代表理事3名、専務理事、事務局長

議 題：① 各ブロックの会議・事業の進捗状況について（2024年度上半期）

② 理事会・執行委員会報告 ③ その他

2) 第2回地域委員会

開催日：2025年3月13日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長、副委員長、ブロック代表理事3名、専務理事、事務局長 計7名

議 題：① 各ブロックの会議・事業の進捗状況について（2024年度下半期）

② 理事会・執行委員会報告

③ その他

2. 事業の実施

(1) 地域園館の活性化に関する事項

動物愛護精神の普及啓発及び地域との交流を図るため、次の事業を実施した。

- 1) 幼児・児童動物画コンクール(北海道 8 園館、福岡県 5 園館)
- 2) 写生大会(中部ブロック 6 園館)

(2) 地域での協会事業に関する事項

会員園館職員の人材育成を図るため次の事業を実施した。

1) 事務主任者会議

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	富士水	2024/10/22-23	28 園館 35 名	対面
中 部	鯖江	2024/11/05-06	14 園館 16 名	対面
近 畿	海遊館	2024/10/23	18 園館 29 名	対面
中国四国	足摺	2024/7/03-04	12 園館 17 名	対面
九州沖縄	熊本	2025/2/12-13	16 園館 22 名	対面

2) 動物園水族館飼育係研修会

① 動物園飼育係研修会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	宇都宮	2025/1/22	16 園館 26 名	対面
中 部	日本平	2024/6/19-20	20 園館 35 名	〃
	シャボ	2024/11/27-28	19 園館 24 名	〃
近 畿	王子	2024/6/25	12 園館 36 名	〃
中国四国 (水族館と合同)	常盤	2025/2/05-06	14 園館 25 名	〃
九州沖縄 (水族館と合同)	九州	2025/1/28-29	10 園館 23 名	〃

② 水族館飼育係研修会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	寺泊	2025/3/4-5	12 園館 16 名	対面
中 部	近畿ブロックと合同開催			
近 畿	鳥羽	2024/6/26-27	15 園館 34 名	ハイブリット
中国四国 (動物園と合同)	常盤	2025/2/05-06	14 園館 25 名	対面再掲
九州沖縄 (動物園と合同)	九州	2025/1/28-29	10 園館 23 名	〃 再掲

3. ブロック園館長会議

次のブロック園館長会議を開催し、ブロック内事業を実施するため、議題に基づく意見交換、問題解決、意思決定等を行った。

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	小樽水	2024/04/16-17	45 園館 58 名	対面
〃	かみね	2024/10/17-18	44 園館 53 名	対面
中 部	豊橋	2024/04/25-26	21 園館 26 名	ハイブリッド
〃	岡崎	2024/10/16-17	17 園館 23 名	ハイブリッド
近 畿	南紀	2024/04/15-16	20 園館 29 名	対面
〃	天王寺	2024/10/28-29	18 園館 25 名	対面
中国四国	お魚館	2024/04/15	13 園館 13 名	ウェブ
〃	玉野	2024/10/20	15 園館 17 名	対面
九州沖縄	沖縄水	2024/04/18-19	17 園館 20 名	対面
〃	久留米	2024/11/07-08	18 園館 20 名	対面

Ⅶ 事務局事業

協会事務局は刊行物、CITES 保護、野生動物保護募金など次の事業を実施した。

1. 執行体制

専務理事 1 名、事務局長 1 名、職員 5 名

2. 事業の実施

(1) 統計、刊行物に関する事項

1) 年報の発行

※2024 年 9 月発行 350 部

動物園水族館に関する管理者・職員数・飼育動物数・入園館者数・経費・繁殖動物などを調査し、会員園館及び関係機関に配付するとともに、一般にも有償頒布する。

2) 事業概要の発行

※2024 年 8 月発行 400 部

協会の概要・会員・役員・各種会議・事業など集約し、会員園館に頒布するとともに関係機関にも配付する。

3) 月報の作成

会員園館の事業報告、各種会議報告、事務局報告などを毎月作成し、会員用ホームページに掲載するとともに、維持会員にもメール配信し、情報提供を行った。

4) 飼育ハンドブックの増刷等（改訂版 新・飼育ハンドブック）

2024 年度は増刷無し

5) 動物園水族館雑誌の発行

動物園水族館雑誌 66 巻第 1 号～第 4 号 各 500 部

(2) 会費に関する事項

次の関係団体に加入し、総会へ出席するなど情報交換を行うとともに、種保存など連携を図った。

1) 日本博物館協会（30 千円）

2) 国際自然保護連合(IUCN)（212 千円）

3) 国際自然連合日本委員会(IUCN-J)（30 千円）

- 4) 世界動物園水族館協会(WAZA) (426 千円)
 - 5) 日本ツル・コウノトリネットワーク (2 千円)
 - 6) 野生動物保全繁殖研究会(10 千円)
 - (3) 野生動物保護募金に関する事項
 - 1) 野生動物保護募金事業助成 8 件 3,790,000 円
野生動物の保護活動に積極的に取り組むため会員園館に募金箱を設置し、来園者などから広く寄付金を募り、野生動物の保護活動事業に助成した。
2024 年度募金額 129 件 8,768 千円
 - (4) 能登半島地震による被災館に対する見舞金
2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震により被災した「のとじま臨海公園水族館」(のとじま水族館) に対して、会員園館および公開ホームページにて見舞金募集を呼びかけた。
募集期間：2024 年 1 月 16 日～4 月 20 日
募集方法：園館においては募金箱の設置。HP 上では郵便振替による募集
募金総額：71,082,716 円 2,664 件 2025 年 7 月贈呈
2025 年 3 月 22 日 全面再開 アシカ舎の再建、ジンベエザメ館の加温設備に使用
 - (5) 総会・理事会等に関する事項
 - 1) 総会
開催日：2024 年 5 月 28 日 (火) ～29 日 (水) 開催担当：関東東北・北海道ブロック実行委員会
会場：有楽町朝日ホール・有楽町朝日スクエア
 - 2) 理事会・執行理事会・三役会議
 - ① 理事会 7 回開催
 - ② 三役会議 9 回開催
 - (6) 監査に関する事項
2024 年度の事業報告及び決算報告について、2025 年 4 月 25 日に監事による監査を実施した。
 - (7) 新入会員調査に関する事項
2024 年度新入会員は 2 園館 (ごかつら池どうぶつパーク、公財 日本モンキーセンター)
正会員入会審査要綱に基づく審査
 - (8) 法人管理運営に関する事項
会議経費、人件費等執行した。
 - (9) 『「動物の愛護及び管理に関する法律」の改正に対する JAZA の意見表明』文書を環境省自然環境局総務課動物愛護管理室に提出 (10 月 30 日)
- VIII 公益目的・法人の共通事業
職員給与、役員報酬、修繕・委託費、事務所費等を執行した。

IX 決算概要(正味財産増減計算書内枠書抜粋)

(単位:円)

科目	公益目的会計	法人会計	合計
I 一般正味財産			
1. 経常増減の部			
1) 経常収益			
基本財産運用益	63	27	90
特定資産運用益	12,254	3,376	15,630
受取入会金	75,000	175,000	250,000
受取会費	12,453,000	29,057,000	41,510,000
事業収益	37,722,237	0	37,722,237
受取補助金等	35,630,831	0	35,630,831
受取負担金	6,123,000	4,260,000	10,383,000
受取寄付金	78,398,198	8,071,996	86,470,194
雑収益	718,458	20,964	739,422
経常収益計	171,133,041	41,588,363	212,721,404
2) 経常費用			
事業費	190,443,094	0	190,443,094
管理費	0	23,496,280	23,496,280
経常費用計	190,443,094	23,496,280	213,939,374
当期経常増減額	△19,310,053	18,092,083	△1,217,970
2. 経常外増減の部			
1) 経常外収益	0	0	0
2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	18,748,424	△18,748,424	0
当期一般正味財産増減額	△561,629	△656,341	△1,217,970
一般正味財産期首残高	16,933,599	34,815,710	51,749,309
一般正味財産期末残高	16,371,970	34,159,369	50,531,339
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金	0	0	0
受取寄付金	80,358,765	0	80,358,765
助成金返還額	151,963	0	151,963
特定資産運用益	16,001	0	16,001
一般正味財産への振替額	△77,837,505	0	△77,837,505
当期指定正味財産増減額	2,689,224	0	2,689,224
指定正味財産期首残高	203,606,689	0	203,606,689
指定正味財産期末残高	206,295,913	0	206,295,913
III 正味財産期末残高	222,667,883	34,159,369	256,827,252

第4章 事業の課題

2024年度の事業計画に基づき将来構想室、各執行委員会及び協会事務局として事業を実施してきたが、2025度からの主な検討課題は次のとおりである。

I 将来構想室

1. JAZA 将来構想を2025年5月までに完成させ、通常総会で公表する必要がある
2. 広くJAZA 将来構想の周知を図り、広く認知される必要がある。特に協会加盟施設においては、大方の職員が詳細な内容を把握している状態とする必要がある。
3. 将来構想の達成に向けた具体的な事業計画であるアクションプランを策定しなければならない。各執行委員会が、それぞれ所管する分野に関するプランを検討する必要がある。
4. アクションプラン策定の後、将来構想の達成のためにプランに基づく各種事業を着実に実施しなければならない。

II 総務委員会

1. 情報システム運営部

公開ホームページ、会員ホームページの利便性と活用の向上をめざす。

2. 水族館部

水族館部繁殖支援事業の推進

3. 公開ホームページの改訂、アニマルウェルフェア評価のあり方、水族館部繁殖支援事業での生物多様性委員会、教育普及委員会、調査研究委員会との連携

III 教育普及委員会

1. 教育研修部

- (1) 飼育技師資格認定における試験問題の精査
- (2) 飼育技師上級試験の評価
- (3) 飼育ハンドブック繁殖関係資料の編集の在り方検討

2. 普及啓発部

- (1) 「いきもの学びねっと」実施の見直し
- (2) JAZA・HPのアクセス数や利用率などの確認と利用推進
- (3) 生物多様性委員会との環境省関連教育普及事業での協働
- (4) ネイチャーポジティブ推進に関する環境省との連携

IV 安全対策委員会

1. 会員園館における安全対策や災害対策、感染症対策を進めるための情報収集と会員への情報提供の方法について、会員園館からの積極的情報収集が可能となる実施方法について協議を行い、部員の効率的情報収集及び業務軽減化・平準化を図っていく。
2. 安全対策委員会並びに各部会の会議開催などにより、基本情報と事業進捗状況等の共有を図り、事故や災害の発生に向けた着実な事業の実施に努める。
3. 安全対策委員会並びに各部会において、状況に応じた規約およびマニュアルの改正等を協議していく。

V 生物多様性委員会

1. 国際保全事業部

(1) 国際的な連携について

WAZA、CPSG、SEAZA などの国際組織、海外組織と常時、密な連携を維持する必要がある。

WAZA 個体群管理目標 2027 への対応を進める必要がある。

WAZA 保全目標 2030 の実施に向けたシステムづくりへ参画し、JAZA の活動が正当に評価されるように JAZA 内で意見をまとめ、それを反映させるように国際会議にも参加する。

協定を締結した海外の動物園水族館協会との具体的な連携事業を見出し、開始する必要がある。

(2) 国際的な個体群管理事業への対応について

アジア地域協会連携会議の合意事項に沿って、アジア地域での個体群管理計画の連携を進める必要がある。

動物種ごとの国際連携を進める必要がある。

(3) Species360・ZIMS 対応について

グローバルなデータベースへの対応を進める必要がある。

(4) マレーシア・サバ州との生物多様性保全に関わる連携事業について

サバ州における生息域内保全への支援、現地での救護個体の飼育に関する支援、現地や国内での生息域外保全に関する検討、教育普及事業を、それぞれ推進する必要がある。

(5) 経済産業省対応について

経済産業省と継続的に連絡・協力できる体制を維持する必要がある。

(6) 体制の充実について

人材育成を進め、継続的に国内外の機関・組織との関係を維持、構築、発展させることができる体制を確立する必要がある。

世代交代を進める必要がある。

2. 保全戦略部

(1) 種保存事業の実施に係る助言及び支援に関する事項について

個体群管理研修の講師等の育成を図る必要がある。

(2) 配偶子バンク及び遺伝子資源保存等に関する事項について

ZARAS（動物園水族館繁殖研究アライアンス）との協定に基づく事業の周知および実施体制の一層の整備を図る必要がある。

鯨類プロジェクトにおいて、計画的に採精し配偶子の保存を図るとともに、人工授精への活用を検討する必要がある。

(3) 動物名検討事業の引きつぎ

規程の改正に基づき調査研究委員会学術研究部へ事業を引き継ぐ必要がある。

3. 種保存事業部

(1) JCP の推進

① 種管理計画の評価

管理種によって種保存計画の精度の差があり、精査が必要である。

② 海外との連携

国際血統登録者に連絡をしても返信がなく、情報を得ることができない種がある

動物移動など個別の調整はメールなどで進めているが、GSMPなどの会議では通訳が必要で、手配の体制を検討する必要がある。

③ 輸入禁止地域からの輸入

シンガポールの動物園で飼育されているオランウータンを輸入するために、厚生労働省、農林水産省に特別措置の依頼を行っているが許可には至っていない。

④ 非会員施設との連携

非会員施設に管理種を移動させるにあたり、アニマルウェルフェアの観点から施設運営、飼育環境の確認を重視しなければならないため、作業量が増え手続きが滞ることがある。

⑤ 適正施設ガイドライン及び適正飼育ガイドライン

作業部会から提出されたものの、他の業務量が増加により確認ができておらず、体制を見直す必要がある。

VI 調査研究委員会

1. 学術研究部

- (1) 調査研究における課題として、ABS問題と研究倫理に関するチェックリストの策定が求められる。引き続き、情報収集及び調整の上、チェックリスト案を作成が必要。
- (2) ダイバーシティ&インクルージョンの視点を取り入れた技術者研究会の運営について検討課題となっている

2. 栄養研究部

生き餌利用ガイドラインの作成や、動物福祉研究部と協働し、飼育動物の福祉向上を推進することを目指す。また、今後の会員園館における研究活動の推進や支援を実行するため、外部委員を含む部員の増員が検討課題である。

(3) アニマルウェルフェア研究部

アニマルウェルフェア研究部員および評価員など、次世代の人材育成が課題となっている

VII 地域委員会

1. 各ブロックの更なる情報共有を図り、課題の把握・解決に努める。

VIII 協会事務局

1. 事務局内作業の効率化、法律が求める保存文書の電子化を推進する